

2 個別事業評価調査

団体名:向日市

事業名		史跡長岡宮跡朝堂院保全整備事業				
事業の概要	<p>史跡長岡宮跡の朝堂院西第四堂・南門・南面回廊地区について、遺構明示や便益施設の設置等、遺構の環境整備を図るもので、実施にあたっては、史跡長岡宮跡朝堂院西第四堂保全整備検討委員会設置要綱を策定し、委員会を組織し事業に反映した。</p> <p>なお、本年度は、委員会等の指導のもと、施設設置計画地の埋蔵文化財調査を実施し、地下遺構の有無を確認するとともに遺構復原のための資料を得た。</p> <p>埋蔵文化財発掘調査及び前年度の測量成果に基づき、遺構の保護造成、雨水排水など施設の設置、朝堂院南面回廊及び楼閣(翔鸞楼相当施設)の遺構復原表示等のための環境実施設計を行った。</p> <p>そして、本実施設計に基づき、遺構保護のための盛土などの基盤整備工や雨水排水工、朝堂院南面回廊跡や楼閣跡(翔鸞楼相当施設)遺構表示等の環境整備工事を行った。</p>					
	事業期間	平成19年度～平成21年度				
	総事業費	76,819千円	本年度事業費	31,082千円	交付金交付額	7,768千円
事業評価	事業の必要性	事業地は、平成4年に史跡に追加指定を受けた後、平成14、18年にも追加指定を受けている。これらの地域の公有化については、平成5年度から継続的に実施し、平成18年度で一定の買上が完了した。なお、当地は、阪急京都線西向日駅前北30mに位置し、市街地の中心部にあるため、史跡指定後、保護盛土等を実施してきたが、十分な活用が図れていなかった。このため、史跡を活用した保護施策を望む意見が数多く寄せられるなど、早急に整備を行う必要に迫られていた。				
	事業の有効性	史跡を保護、整備し広く市民等に供用することにより、貴重な歴史遺産を守り継承することを第一義的に考えると同時に、校外学習や生涯学習の場、観光資源、市民の憩いの場、市街地の中の緑地帯、災害時の緊急避難地や緩衝帯としての役割など多方面からの活用が期待できる。				
	事業の効率性	多くの市民が、多目的に有効に史跡を利用することにより、さらに長岡京への理解が深まり、文化財愛護の精神と郷土愛を育むことができる。				
	具体的な成果	1 府と市町村等との連携に資する成果 本件事業地(史跡指定地)の公有化に際して、京都府から約10%の補助金を得ている。本件事業の実施に対して、京都府は常に文化庁等関係機関と連絡を取り指導と調整を図られ、整備検討委員会においてもオブザーバーとして建設的な意見を頂いた。このように、史跡長岡宮跡が府民の貴重な歴史遺産であることが位置づけすることができた。				
		2 住民の自治意識を高める成果				
		3 リーディング・モデル成果				
4 広域的波及成果 京都府が進める施策の基本方向「豊かな自然と磨き上げた文化が織りなす交流圏」において、歴史文化の保全・継承と地域文化の振興がある。長岡京跡等の都城遺跡などの歴史的文化遺産の保全・継承を図るとともに、本遺産を活用した賑わいのある地域づくりの促進に役立つことができた。						
5 行財政改革に資する成果						
6 その他の成果 本件事業地は、阪急西向日駅前北方約30mの市街地の中に所在する。昭和57年度の埋蔵文化財発掘調査以後約25年にわたり史跡指定及び同地の公有化事業を行い、一団の土地とすることができた。多様な市民ニーズに対応した史跡公園として広く市民に供用することにより、文化財保護意識の普及を図り、郷土愛を育むとともに市民の文化的・生活の向上に資することができた。						

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。